

日本広報学会「企業とスポーツの関わり」研究会
2001～2002 年度報告書

2003年5月

はじめに

本報告書は、日本広報学会「企業とスポーツの関わり」研究会の2年間（2001年度－2002年度）の活動内容をまとめたものである。

本研究会の研究目的は、「今日、企業は様々な形でスポーツに関わっているが、その理由としては認知度の増加、企業イメージの向上、フィランソロピーの一環など多様である。こうした関わり方について総合的に分析し、その将来像を提示する」としていたが、メンバーの関心領域に伴って、大学におけるスポーツ活動、自治体によるスポーツへの支援、さらにはスポーツ活動そのものの現状と課題やあるべき理念に関する研究にも広がっていった。研究会の登録メンバーは、年度途中からの参加者も含めて18名であった。

2年間に計12回の研究会を以下のように開催した。いずれも会場は大阪・梅田の関西文化サロンで、午後7～9時の2時間開催し、研究会メンバーおよびゲストスピーカーからの興味ある報告をいただき、そのあと討論を行った。報告いただいたゲストスピーカーの方には改めて感謝を申し上げたい（報告者の所属は発表いただいた当時のものである）。

第1回 2001年5月31日（木）

1999～2000年度「企業スポーツ広報」研究会の報告

報告者：貴多野乃武次（阪南大学）

第2回 2001年7月5日（木）

「神戸ウイングスタジアムの建設と運営」

ゲストスピーカー：田中充（神戸市建設局公園砂防部御崎公園担当主幹）

「報告に関するコメント」：古川明（関西アメリカンフットボール協会理事長）

第3回 2001年9月21日（金）

「大学スポーツ、その広報戦略」

報告者：新村佳史（ハドルタイム）

第4回 2001年11月8日（木）

「京都大学アメリカンフットボール部についてIF考察」

報告者：植木 努（コーワ総合会計事務所）

第5回 2002年1月17日（木）

「ワールドカップ日韓共同開催と開催都市広報」

報告者：黒田勇（関西大学）

第6回 2002年3月18日（月）

「パラリンピックと広報活動」

報告者：上野弘子（広報メディア研究所）

第7回 2002年5月30日（木）

「研究会の今後の進め方について」

第8回 2002年7月11日（木）

「外国人スポーツマンとビジネス—ラムネ販売と関西スポーツのルーツ」

報告者：高木應光（兵庫県立芦屋高校）

第9回 2002年11月7日（木）

「都市を目指すディズニー—ディズニーのPR環境」

報告者：貴多野乃武次（阪南大学）

第10回 2002年12月12日（木）

「ワールドカップについて」

「スポンサー企業」VCの活動と成果・課題」

ゲストスピーカー：鎌倉喜彦（日本ビクター AV&マルチメディアカンパニー海外営業本部マーケティング推進部副参事）

「JAWOCのW杯組織運営の成果と課題」

ゲストスピーカー：小松健司（日本ビクター I L Aセンター営業部プロジェクターグループ副参事）

第11回 2003年1月23日（木）

「スポーツNPOの展望—SCIXの到達点と課題」

報告者：川戸和英（大阪電気通信大学）

第12回 2003年3月4日（火）

座談会：「企業スポーツと広報」

出席者：研究会メンバー

研究会報告のうち、高木、川戸の両氏には、報告と同じテーマで執筆いただいた。貴多野さんからは研究会報告後にまとめられた論考をお寄せいただいた。難波さんは2002年度に在外研究でスコットランドに滞在されていたので、そこでの体験をもとに執筆された。

日本ビクターからゲストスピーカーをお迎えした研究会のテーマについては小野さんにまとめていただいた。芝田は報告はしなかったが、スポーツに関連したレポートを掲載した。最終回では、研究会メンバーによる総括の座談会を開き、名取さんにまとめていただいた。

本報告書に掲載できなかった研究会報告の要旨は以下の通りである。なお、上野さんの報告内容は「日本広報学会・企業スポーツ広報研究会 2000年度報告書」にすでにまとめられている。

第2回

1. 報告「神戸ウイングスタジアムの建設と運営」

田中充（神戸市建設局公園砂防部御崎公園担当主幹）

スポーツにとってスタジアムなどの会場の整備やそのあり方の検討が重要であるとの視点から、サッカーワールドカップの会場のひとつである「神戸ウイングスタジアム」の建設と運営について、ゲストスピーカーとして田中充氏をお迎えし、お話を伺った。とりわけ神戸市が進める「アスリートタウン構想」のなかでのウイングスタジアムの位置づけについて興味深い構想を話していただいた。

2. 報告に関するコメント 古川明（関西アメリカンフットボール協会理事長）

長年、アメリカンフットボールに振興に携わってこられた古川会員から、スポーツ振興におけるスタジアムの整備と充実の必要性について話していただいた。

第3回

報告「大学スポーツ、その広報戦略」 新村佳史（ハドルタイム）

新村会員から、学校スポーツと企業スポーツの間に位置する大学スポーツの広報価値について、その変遷と課題を話していただいた。大学においても経営的な面の重要性が強調される今日、多様な側面から大学スポーツのメリットとデメリットを話され、それに基づいて討論を行った。

第4回

報告「京都大学アメリカンフットボール部について I F 考察」 植木努（コーワ総合会計事務所代表）

京都大学のアメリカンフットボール部OBでもある植木会員から、大学スポーツのもつ課題の一例として、テーマに基づく報告をしていただいた。スポーツのもつ合理性と精神性の関係について示唆に富んだ話であった。

第5回

報告「ワールドカップ日韓共同開催と開催都市広報」 黒田勇（関西大学）

開催年を迎えたワールドカップの開催都市広報について、日本と韓国の開催都市のホームページ分析や、韓国での現地調査に基づいてその比較を報告された。日本では経済効果や地域の活性化を「開催意義」としている都市が多いのに対して、韓国では世界への発信やナショナル・アイデンティティの確立を開催意義としているとの結論を提示された。

第6回

報告「パラリンピックと広報活動」 上野弘子（広報メディア研究所）

ちょうどソルトレーク冬季オリンピックのあとのパラリンピックが開催された時期であったので、ビデオを使用して、パラリンピックの広報活動について報告していただいた。パラリンピック開催時は多くのメディアも注目するが、障害者スポーツ全体の振興のためには公的な援助が欠かせないとのまとめをされた。

2年間の研究を通して、現代におけるスポーツの役割と課題、スポーツと企業（または大学）との関わり、スポーツイベントの広報活動の現状と課題、などの課題を深めることができたと考えている。本報告書が企業とスポーツ、さらには社会とスポーツを考える素材となることを願っている。

芝田正夫

目次

はじめに

- スポーツNPOの展望－^{シックス}SCIXにみる到達点と課題
川戸和英（大同工業大学）…………… 1
- ワールドカップと企業のブランドプロモーション活動－JVCの事例を中心に
小野豊和（日本在外企業協会）…………… 8
- 外国人スポーツマンとビジネス－ラムネ製造・販売と関西スポーツのルーツ
高木應光（芦屋高校）…………… 24
- 企業運動会の未来
貴多野乃武次（阪南大学）…………… 32
- プレミアリーグとスポンサーシップ
難波功士（関西学院大学）…………… 54
- 『フットボール・アニュアル』に見る英国のスポーツ観
芝田正夫（関西学院大学）…………… 57
- 座談会「企業スポーツと広報」
出席者：研究会メンバー
記録者：名取千里（株式会社ティーオーエー） 63
- 「企業とスポーツの関わり」研究会メンバー／編集後記…………… 84